

興全寺報 施食会当日版 とんがらし通信

興全寺所縁の人物を採る (1)

平成 29 年 6 月 18 日
龍寶山 興全寺
寒川町宮山 1785
TEL 0467 (75) 6062
FAX 0467 (73) 0568
ホームページ
http://www.samukawa-shj.net/kouzenji

「閑山・英顔麟哲大和尚さまと徳川家康公

(一) 御閑山

興全寺の初代住職は英顔麟哲(えいがんりんてつ)大和尚様です。小谷の福泉寺様と同じ御閑山(お寺を開いた和尚さん)です。慶長二年七月二十二日(一五九七年)に「閑山が示寂(お亡くなりになること)なされた」と記録されています。皆様ご承知の通り、今から五年後に晋山式が予定されており、その記念事業として、閑山堂の建設計画が昨年より始まりました。現段階の計画としては、本堂奥に建立され、御閑山が中央に鎮座なされ、その左右には興全寺を菩提寺とするお檀家さんお一軒一軒のご先祖様のお位牌が並ぶことになっております。

(二) 開創当時の宮山村と徳川家康公

興全寺は曹洞宗寺院である清源院の末寺として英顔麟哲大和尚様によって開かれました。時代は戦国時代の末期。当時は寒川を横断し江戸の渋谷に直結する旧中原街道(おす街道ともいわれます)と大山街道が一之宮で交差し、箱根越えの宿場町としてにぎわっていたそうです。徳川家康が江戸に本拠を構え、平塚には中原御殿を建てました。その当時は中原街道を通り、江戸と平塚を往来しては放鷹を楽しんだといわれています。寒川神社参道入口の鷹匠橋や大蔵の露木さんの名字を家康公から賜ったという話(※)はその名残となつて今も伝わっております。

※これは大蔵の露木林家に伝わる口伝で、家康公がいつもの御座松に腰掛けて休もうとしたとき、にわか雨が降ってきました。その際に、雨宿りした農家の、家康公に対するもてなしが気に入り「所望のものはないか?」と家康が訪ねたそうです。その時の申し出が「苗字をいただきたい」という願いで、徳川将軍自ら木から落ちる露を見て「露木」と名付けたという話です。大蔵の露木一族のルーツだといわれております。

(三) 興全寺と徳川家康公

興全寺の山門を解体した時、その冠木(かぶらぎ)に、「日光東照大権現(家康公)此の山門を入り、参詣されたこと」が江戸時代中期の頃の十一代住職による墨書で鮮明に記述されておりました。その時檀家の古老の語に、寺紋に「葵の三つ葉」を賜ったという口伝があり、昔から地元で伝承されてきたことが分かったのです。「相模風土記」「徳川実記」などから、少なくとも十一回放鷹(ほうよう)などで中原街道の寒川郷を通つたといわれております。

“檀信徒全員のご浄財で”

五年後の閑山堂落慶式をめぐって

平成五年の新本堂落慶以来、悲願でありました閑山堂建設寄付お申し込みが昨年暮れから始まりました。本年三月末現在で、概ねほとんどの檀信徒の皆様のお申し込みを賜り、資金計画の大よみな見通しを立てることができました。本事業に対しまして、皆様の温かいご理解ご支援を賜り深く御礼申し上げます。

さて皆様ご存知の通り、閑山堂(位牌堂)というのはお寺の伽藍の本堂奥に建立され、歴代住職、すべての縁ある興全寺檀信徒のご先祖様のお位牌が安置されるところで、誰もがご参りする場所でもあります。

換言すれば、興全寺を菩提寺とされるすべての皆様のご先祖様が永眠されるお堂であります。従って、このお堂を建立するとき一番大事なことは、額の多寡にかかわらず、ここに安置されるすべての檀家さんがお金を出し合い完成させることだと思います。

皆様おひとり、おひとり浄財を出し合い、完成させたいと、住職役員一同、心から願っております。まだお申込みお済でない方は今からでも結構です。どうか私たちのささやかな願いをご理解賜り、重ねてご協力お願い申し上げます。

香山結制事業委員会
興全寺
山主合掌
役員一同

秋までの主要行事

- | | |
|--|--------------------------------------|
| 6月18日(日) | 平成29年度 施食会 |
| 7月13~15日 | 新曆新盆 |
| 8月13日(日) | 孟蘭盆会合同慰霊祭(午前10時~)
合同新盆孟蘭盆会(午後2時~) |
| 8月14日(金) | 新盆家の棚経廻り |
| 8月15日(土) | 新盆家の棚経廻り(町外) |
| 8月24日(月) | 地藏盆(17時~) |
| (相模とんがらし地藏尊および、とんがらし地藏尊の大祭)
水子供養・ふるさと供養 | |
| 9月23日(水) | 秋季彼岸会慰霊法要 |
| ① 彼岸会法要(9時~) | |
| ② 寒川神社合同慰霊祭(10時~) | |

興全寺所縁の人物を採る (2)

生まれ育ちが寒川・宮山

名力士君ヶ浜市五郎と実家熊井家の墓所

皆さんは寒川宮山生まれの郷土力士で、相撲界の「大久保彦左衛門」として素晴らしい名声と業績を残し、後に「君ヶ浜部屋」の称号を許された立派な力士の名をご存知ですか? 今から五十年ほど前まで、旧東海道の南湖付近の街道沿いに君ヶ浜を称える大きな石碑が建っておりまして。それほど地元の人に愛され、尊敬された閑取の生まれ育つた実家は寒川の宮山で、興全寺の昔からの檀家さんの熊井家だったので。(現在は甥にあたる方の家族が大和市に在住です)



日清戦争に自発的従軍

時はちょうど十九世紀末の日清戦争の時代です。多くの日本人が大陸に従軍して、お国の為に戦っていたころ、市五郎（君ヶ浜の実名）は人格的に優れた人望ある近衛（北白川の宮家の護衛をつかさどる）の力士でした。市五郎は国家危機のこの戦時に相撲どころではないと、現役の幕内力士三十数名を引き連れ戦地の近衛師団に「力士義勇団」として入隊し、中国本土を経て台湾を舞台に活躍したのです。しかしながら、時の相撲協会はあくまでも個人的な行動として、彼らを、協会の秩序を乱した者として「破門」という厳罰を課しました。正義感に燃える市五郎たちはそれに屈することなく、明治二十八年三月、遼東半島に上陸し、戦局は日本勝利の勢いで進展しましたが、最後の戦場台湾において北白川の宮様の突然の死に遭遇し、護国寺での国葬では御棺を担ぐ重要な役を頂戴し立派に果たされたのです。

角界の大久保彦左衛門

市五郎はその勇気と正義感で、かの有名な乃木希典陸軍大將、浅田大將の知遇を得ました。帰国後、当然ながら名誉挽回を果たしましたが、入幕直前の十両止まりで引退を決意し、当時の幕末からの相模出身の名力士初代君ヶ浜（小田原市早川出身）から二代目「年寄・君ヶ浜」と指名されたのです。その後、君ヶ浜市五郎は協会の勝負検査役に三度選ばれるほど人望篤く、そのしこ名は十代まで続いています。なかでも、関脇北瀬海（十代）現在の九重部屋、鶴ヶ峰（八代）一井筒部屋として独立し前頭五枚目千代桜（九代）は我々もよく知っている力士です。

温暖な神奈川からは関取が出ない、とはよく言われてきた風説ですが、実は明治の初めにこれだけの大物の実家がこの興全寺にあるということ、そして実家のご先祖様と兄君ヶ浜の為に市五郎の実弟（荒角彦四郎、のちの「神風」）が慰霊碑を立てられたということに、君ヶ浜兄弟の人間的暖かさを感じさせられます。（なお、詳しくは興全寺ホームページに全文7ページで掲載されています）。

お寺詣り & ご仏前

ご寄進いただき

ありがとうございます

住職 合掌

編集後記



大和南高等学校書道部の皆さんの坐禅研修（昨年夏休み）

“足の感覚が・・・。”
“あと何分・・・”

写真はず昨年夏の、高校生坐禅研修会のシーンです。そういえば昨年はさむかわ国際交流協会の中国からの学生グループ（毎年）、アメリカの大学生グループ、寒川神社少年間研修会や旭少年サッカーチームの毎年の坐禅修養会と十団体を超えました。マインドフルネス（瞑想）の癒し効果が見直されている時代のようにです。

▼ もう一つ最近のお寺の様変わりとして、「御朱印」集めがあげられます。お寺に関心が高いのは結構ですが、集めることだけに熱中して、まっすぐ事務所まで御朱印帳を真っ先に出され、本尊様にお参りもせずそのままお帰りになる若い人も時々お見受けいたします。まずは本尊様に手を合わせてから御朱印を申し出てください。

▼ 施食会直前、当山総代の金子信夫様より、紅白のベコニアの花が正面階段に並べられました。いつも季節のお花ありがとうございます。

▼ 「とんがらし通信」ようやく当日报でお届けすることができました。開山堂のご寄附の状況については、事業委員会飯田 誠委員長から「委員会だより」などでご報告が後日あるかと思えます。ご協力ありがとうございます。